

地域支援センター「しせい」

第3号 地域支援センター通信【平成30年7月13日発行】

相馬看護専門学校生の実習を終えて

今年度も5月2日(水)と5月9日(水)の2回、相馬看護専門学校生23名が本校に実習にやってきました。1日という短い実習期間の中で、感じたことを実習生の声として紹介します。

1回目の実習生は11名、事前実習レポートには「かかわり」という言葉が多くありました。1回目のキーワードは「かかわり」です。

2回目の実習生は12名でした。1回目同様に、「かかわり」がキーワードでした。障がいのある子供とのかかわり方に関心が高いことがうかがえました。

実習を行う前は、障がいのある子供と接したことがなく、不安な気持ちがありました。

実習を行い、言葉だけではなく表情やしぐさなどの非言語の部分の大切さに気付くことができました。

その子にあったかかわり方をしたいと思いました。

看護の視点と同様に、障がいのある子供たちとのかかわりでは、相手の思いをくみ取ることが大切だと感じました。

先生方がどのようにコミュニケーションを取っているのかが興味がありました。

先生方は一人一人に合わせたコミュニケーションの取り方を心掛けていることに気付きました。

障がいのある方と接したことがないので、うまくコミュニケーションが取れるのか心配でした。

私たちと同じように生活していることがわかりました。これから看護の現場で出会ったときには自分から積極的に話しかけたいです。

障がいに応じた個別性のかかわりについて学びたいと思いました。

身体のことでは障がいに応じて様々ですが、コミュニケーションについては普段接している患者さんと同じだと思いました。

自分たちと同じように笑い、元気に生活している子供たちと接して、共に生きる仲間であるという思いを抱いてもらえたように感じました。

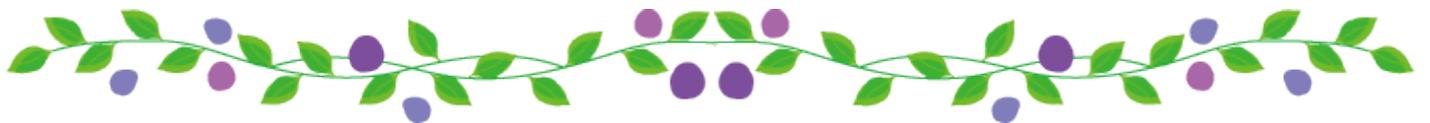
上記のように、障がいのある子供たちが特別な存在ではないことに気付いてくださった相馬看護学校のみなさんは、多くの方が地元で就職するそうです。この相双の地域で障がいのある子供たちや障がいのある方への理

解者が増えることは、本校での実習を経て、ことを感じています。

これから国家試験に合格を心より祈ってい

向けて励むみなさんのます。



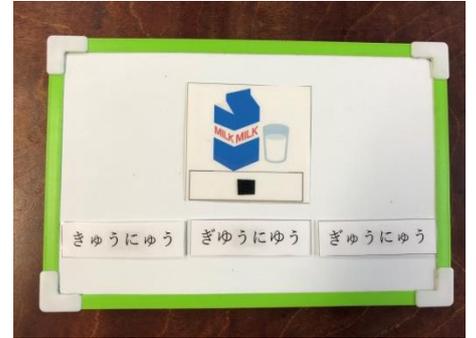


～相馬支援学校・手作り教材のご紹介～

7月26日(木)に開催する本校のセミナーでも、午後から「特別支援教育での国語・算数の指導法(仮)」というテーマで分科会を設定しました。子供たち一人一人の確かな学びを育むために、子供たちの実態に応じた教材はとても大切だと感じています。今回は、本校で使用している手作り教材をご紹介します。

～小学部の教材～

国語編



「文字チップ」です。平仮名の学習に使用します。↑「文字チップ」を使った言葉の構成と↑濁音、拗音、促音の学習へ展開です。



「文字チップ」を使って、一文字ずつマッチングから始めます。平仮名を一文字ずつ学習してから、生活や学習に身近な言葉の構成につなげていきます。子供たちの生活や学習に身近な言葉だからこそ、定着につながっていくと考えています。
高学年になると、文の構成にも取り組みます。ここでも、生活に身近な文の構成から始めます。

↑ 文の構成の教材です。

～小学部の教材～

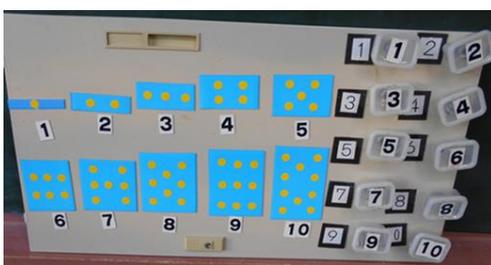
算数編



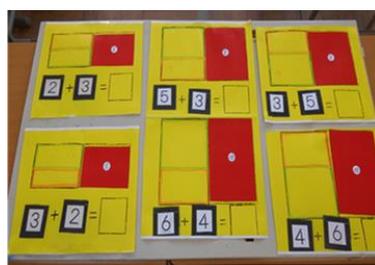
↑ 教頭先生手作りの教材です。引き出すと数字が出てきます。



↑ 1から順番に10までの「ペグ差し」の教材です。



↑ 「数のかいだん」の教材



↑ 「数の合成」の教材

算数の学習では、「一つの穴に一つのビー玉を入れる」、「一つの穴に一つのペグを差す」という1対1の対応から始めます
教材を使って実際に操作しながら学習することを大切にし、四則計算の基礎の「数の合成」につなげています。

